

認知症（Dementia）その2

市川治療室 NO.360.2018.07

認知症は徐々に進行していきますが、進行を四段階で分類されます。

- 1・軽度認知障害（MCI）
- 2・初期（軽度）
- 3・中期（中等度）
- 4・後期（重度）
- 5・終末期

- 1・軽度認知障害の段階では、日常生活は自立をしているが「物忘れ」のみが特に目立ちます。この段階では「認知症」とは診断されませんが、放置しておくと5年で50%程度の方が認知症に移行すると言われています。
- 2・初期（軽度）段階では、認知機能の低下・行動心理症状（BPSD）の表れなどがあり物忘れ、意欲低下、おかしいなと思う言動が目立ちます。

軽度認知障害から初期段階の時期に表れる症状（行動・心理症状）は、性格、環境、人間関係などの要因により精神症状や行動に支障がおきる症状で、具体的には不安・焦燥・うつ状態・幻覚・妄想・徘徊・興奮・暴力・不潔行為などがあります。

- 3・中期（中等度）段階では、認知症中核症状の進行、生活上の問題が著名となり食事、着替え、入浴、排泄などに支障がでてきます。

中核症状は、脳の細胞が壊れて、記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害、実行機能障害などで、不安感や焦燥感が強くなり、徘徊などの行動心理症状（BPSD）が強く表れてきます。

- 4・後期（重度）段階では、運動機能の低下・医療的ケアの増加が目立つようになります。嚥下機能低下、骨折、寝たきり、褥瘡（床ずれ）などが目立ちます。

徐々に運動機能が低下し、失禁などが出現して、身の回りの世話が必要となります。日常生活での種々の判断が難しくなっているため、家族が決定しなくてはならないことが少なくありません。

- 5・終末期段階では、突然の病状変化・生命維持方法の選択をする時期で、栄養摂取方法や看取り方法を検討するようになります。

自分で栄養を摂る事が難しくなり延命処置や生命予後に関わる選択をしなくてはならないことが少なくありません。

…続く